



発行所 長崎新聞社 長崎市茂里町3-1 〒852-8601

12月20日 (土) 大安

(旧暦11月1日)

【総合案内】095-844-2111  
【記事・取材】095-846-9240  
本社 095-846-9240  
佐世保支社 095-622-9145

【新聞購読】095-844-5063  
【新聞社権】095-844-5261  
【広告の申し込み】095-844-4874

県産紙宣言。



# 日銀利上げ0.75%に

## 30年ぶり水準 物価高対応

日銀は19日、金融政策決定会合を開き、景気や物価を調節する政策金利を現行の0.5%程度から0.75%程度に引き上げることを決めた。1995年9月以来30年ぶりの高水準で、物価高に対応する。植田和男総裁は記者会見で、経済や物価が想定通り推移すれば「引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整する」と発言し、利上げを継続する方針を示した。国債市場では長期金利が上昇、終値は2.020%と26年10カ月ぶりの水準になった。

【3面に関連記事】

## 長期金利上昇2%超

利上げは1月以来、今年

価が想定通り上昇すれば、今後も「適切なタイミングで利上げが見えてくる」ということは十分あり得る」と述べた。

長期金利上昇は日銀の利上げのほか、補正予算の膨張といった政府方針も影響したとみられる。植田氏は、通常と異なる例外的な動きをした場合は「機動的に対応する」とし、金利を抑制する効果がある国債買い入

### きょうの紙面

#### 知事選で公開討論会

23面

来年2月の知事選を前に19日、長崎市の長崎大で公開討論会が開かれた。立候補を表明した5人のうち4人が登壇。学生らの質問に答え、人口減少などの本県の課題や、将来について意見を交わした。

- 食料危機 初の机上演習 8面
- 「大地讃頌」定着なぜ 11面
- レスリング小川が初V 15面

# 減税並べ家計

## 26年度与党大綱、財

替市場では円売りが進んだ。利上げは円高要因とされるが、市場はまだ金利水準が低いと判断した可能性がある。利上げで企業は借り入れの負担が増すほか、変動金利型住宅ローンの返済額は増えることになる。日銀は利上げが経済や国民生活へ及ぼす悪影響も慎重に見極める。日銀は利上げを決めた理由について、米国の高関税政策を巡る不確実性が「低下している」とし、国内企業の収益は高い水準が見込めるとの認識を示した。その上で来年の春闘で「しっかりとした賃上げが実施さ

自民、日本維新の会両党は19日、2026年度の与党税制改正大綱を決定した。所得税が生じる「年収の壁」を160万円から1

る予定で、改正を具体化する法案を年明けの通常国会に提出する。減税分を埋める財源を確保できなければ財政の悪化を招き、経済的な

# 地域総合

畑でちぎったばかりの雲仙こぶ高菜を馬場さん(左)から手渡される参加者  
—雲仙市吾妻町



## 長崎大主催の国際シンポ関係者

### 雲仙で伝統野菜学ぶ

地球環境の健全性と人間の健康は関係しているとする概念「プラネタリーヘルス」について、食を通じて考える国際シンポジウム(長崎大主催)が14日、長崎市内で開かれ、生産や消費、環境などの観点で議論された。これに先立ち13日、シンポ登壇者が雲仙市内の生産者らを訪ね、伝統野菜や食文化などを学んだ。

現地視察では台湾やマレーシア、徳島大の大学教員、長崎大の教員や学生ら18人が同市内4カ所と島原市1カ所を巡った。

雲仙市伝統野菜を守り育てる会の馬場節枝さん(75)宅に同市吾妻町では、茎にこぶが

ある高菜で地域の伝統野菜「雲仙こぶ高菜」について学んだ。馬場さんが「絶滅しかけていたが地元農家が発見。地域で守り育ててスローフード国際本部(イタリア)の最高位を受賞した」と話した。

参加者は、野菜から採る種で育てる「自家採種」による高菜のこぶ部分を生のまま試食。浅漬けづくりにも挑戦した。台湾国立清華大の張璋琦准教授(食農人類学)は「こぶは生でも苦みがなく甘くておいしい」と驚いた。馬場さんは「その土地に合う味わい深い野菜になる自家採種農法や、伝統野菜のことを伝えられてうれしい」と語った。(関根めぐみ)



設立総会で「顔の見える関係づくりを目指したい」と呼びかける堀川会長(中央)島原市、杉谷公民館

(緒方秀一郎)

## なぜ定着?

大地をたたえるのか。経緯をたどると市民と大地讃頌の関係性、音楽の持つ力が浮かび上がってきた。

「母なる大地を ああ たたえよ大地を ああ」。10月28日、同市幸町のシールハットおむらに市内の中学生1078人の合唱がこだました。3年生を中心に参加した「第62回市中学校音楽会」。各校が歌を披露し、最後に全員で合唱したのが大地讃頌だった。

この曲は1962年に作詞家の大木悳夫、作曲家の佐藤眞によって書かれた「カンタータ『土の歌』」の最終楽章。同市では数十年間、中学校音楽会で歌われている。市立大村中の原敏男教頭によると、校内暴力などが問題になった昭和後期、歌の力で生徒を育てよう

したのが、多くの人が晴れやかな表情を浮かべた。坪田さんは「優しく厳しく、諭して励ます曲。祈りがあり、突きつけるものもあり、人間を信じたいという願いもある」と奥深さを語る。指導の際、大地や親の愛など当り前にあつて見失いがちなものへの感謝を改めて思い起こさせるという。大地讃頌は揺れ動く若者の心を支え続けている。(岩佐誠太)

## 島原・杉谷地区に まちづくり協議設立

地域課題解決へ16団体

32年前の雲仙・普賢岳噴火災害の千本木火砕流で被害を受けた島原市杉谷地区の地域課題解決に取り組む「杉谷まちづくり協議会」の設立総会が、同市宇土町の杉谷公民館であった。

市内のまちづくり協議会は安中地区に続き2例目。杉谷地区では9月、各種団

体で準備委員会を結成。町内会連絡協議会や自主防災会など16団体が賛同した。10日の設立総会には住民ら約100人が参加。地域防災などの方針を包括的に定める「杉谷まちづくり計画」を策定するなどの事業計画案を承認した。

会長には中尾川の清掃活動に取り組んでいる「杉谷地区コスモス愛護会」会長の堀川邦夫さん(72)を選出。堀川さんは「住民同士が支え合い、譲り合い、助け合いのもと、顔の見える関係づくりを目指したい」と呼びかけた。